

第14回 GX実行会議 「GX2040ビジョン（案）について」

2024年12月26日
三菱商事株式会社
常務執行役員電力ソリューショングループCEO
岡藤 裕治

GX実行会議（第14回）レジュメ

1. 総論

2年強に亘る議論を踏まえて「GX2040ビジョン」が示された訳だが、これまでの関係者のご尽力に敬意を表したい。**日本の「産業競争力強化」に資するGX実現に向けて**、今後一貫性のある方針の下、各種施策が迅速に実行されることを期待する。

産業構造を大きく転換する可能性を秘める生成AIの普及、これを支える半導体、データセンター、及び電力の確保に向けた動きが昨今顕著であるように、**外部環境は常に変化することを前提とすべき**。現実を見ながらも時機を逸することがないよう、**スピーディ且つダイナミックに戦略を実行していくことが何よりも重要**。今回の「GX2040ビジョン」の中で定められる支援策の枠組みに関しても、今後も外部環境の変化、GX投資の進捗等を踏まえた**不断の見直しが求められる**。

2. 脱炭素電源の重要性

- **産業競争力の源泉はエネルギーのコスト競争力**である点を改めて強調したい。日本の産業の空洞化を防ぎ、地域経済の成長を牽引するためにもエネルギーコストを持続可能な形で下げていくこと、即ち**再エネ等クリーンエネルギーの安定的な供給と効率的な活用**が求められる。
- 現在検討が進められているエネルギー基本計画（原案）において、主力電源としての再エネを始め、脱炭素電源を最大限活用する方向性が示されているが、計画実現に向けては、これら**脱炭素電源に必要な投資が時機を逸することなく講じられるような支援策**が一刻も早く必要。支援策において、**事業者の長期予見性を高めることは最も重要な要素の一つ**であり、事業者がコントロール出来ない外部要因による影響を一定程度調整する仕組み等、**事業者が事業リスクを定量化できる制度等**が求められている。

3. GX産業立地

- 繰り返しになるが、経済成長という観点では世界に伍して競争に勝ち抜くことが極めて重要。**日本発のグローバルプレイヤーを戦略的に支援**する発想を持ち、重点分野に対して時機を逸することがないよう**スピード感を意識した支援**をお願いしたい。
- **データセンターを始めとするAIインフラ・AI基盤の国内整備・拡大は不可欠**であり、これらインフラ・基盤のための土台として、**コスト競争力のある脱炭素電源の供給力が十分に確保されること**が求められるが、**日本企業がその裨益を受けられる産業構造を構築し**、デジタル赤字解消につなげていくことも日本の経済成長には必要。

4. GX産業構造

- 新たなGX産業創出に向けては、**GXの価値が評価される市場を日本国内に閉じることなく他国とも連携した形で構築されること**を期待したい。